



Native English Speaker

味の素株式会社の唐川幸聖先生からバトンを引き継ぎました。アサヒグループホールディングス株式会社の柿木康宏と申します。書き物といえば専ら報告書の類が多く、エッセイなど書くのは十数年ぶりのことです。まず、久々のエッセイということで、題材探しから始めました。このエッセイを書いている時期はちょうどお正月にあたり、新しいことにチャレンジしてみたい季節でございます。そこで、私が本年のお正月に始めたチャレンジの中から、“英語上達への挑戦”について、徒然なるままに叙述させていただきます。

仕事上、英語圏の方（Native English Speaker）とお話する機会が時折ございますが、そんな中で強く感じるのは、彼らの話す英語には“①スローで聞き取りやすい英語”と“②ハイスピードで聞き取りにくい英語”の2種類があるということです。あるディスカッションの場に、とても聞き取りやすい英語を話される方がいらして、『何故、あなたの英語は聞き取りやすいのですか？』と尋ねたところ、『母国で日本人と一緒に仕事をしているが、彼とスムーズにコミュニケーションをとるために必然的にこういう話し方になった。』とおっしゃっていました。つまり、日本人向けの英語の話し方を心得たということです。また、こんな経験もありました。英語圏の研究者の講演会があり、内容・英語ともにとっても分かりやすいプレゼンテーションでした。ところが、講演が終わった後に、演者の方が同僚と会話をしていると聞くと、ハイスピードで何を話しているのか全く分かりませんでした。つまり、講演会では①スローで聞き取りやすい英語、通常の会話では②ハイスピードで聞き取りにくい英語を使い分けられているのです。常にNative English Speakerが私に①の英語で話してくれれば問題はないわけですが、いつでもそんな幸運な状況に甘んじられるとは限りません。そして、より深いコミュニケーション醸成のためには②の英語への理解が必要と考えて、英語上達への挑戦を始めることにしました。

勉強の題材には、自分の好きな洋画を選びました。いくつかの映画を題材にしましたが、ここでは“*Before Sunset*”という1995年の米国映画についてご紹介します。この映画はEthan Hawke & Julie Delpy主演のラブストーリーで、会話の質が高いことと平易な英語が比較的多いことから、題材に選びました。これがアクション映画ですと会話の質が低かったり、また法廷モノですと難解な専門用語が多すぎたりして不向きな場合があります。Native Englishのポイントはいくつもあると思いま

すが、ここでは“連音”について述べます。例えば、映画の冒頭でJulie DelpyがEthan Hawkeに話しかける“*That's why I'm in the train.*”というセリフは、日本人的には『ザッツ・ワイ・アイム・イン・ザ・トレイン』と発音しますが、Native speakerはそう発音せず、およそ『ザッワイアイミナチュレイン』と聞こえます。この違いはNative speakerが単語と単語を結びつけて発音（＝連音）するためです。これは英語上達のための勉強の一例ですが、今後も楽しみながら勉強を続けたいと考えています。

ところで、分析化学における専門用語となるとどうでしょう？ 書き言葉としての専門用語は英論文等で目にする機会も多いので比較的馴染みやすいかと思いますが、読み言葉、聴き言葉となるとハードルが上がります。例えば、次の単語はどう発音すると思いますか？

ion, argon, acrylamide, MALDI, chlorpyrifos

英語がご堪能な方には簡単すぎる問題かと思いますが、答えは左から順にイオン（イオン）、アーゴン（アルゴン）、アクリラーマイド（アクリルアミド）、モーディ（マルディ）、クロロピラフォス（クロロピリフォス）です（括弧内は日本語における発音）。なお、分かりやすくするために、答えを“最も英語の発音に近いと思われるカタカナ”で表記していますが、正確にはNative speakerの発音あるいは辞書等の発音記号をご参照下さい。専門用語の読み言葉、聴き言葉を学ぶには、やはりNative speakerの研究者の発音を参考にするのがよいと思います。もし、Native speakerが身近におられない場合には、国際学会や海外研究者の講演会に参加するのもよい機会だと思います。昨年、京都で開催された国際質量分析会議2012に参加させていただきましたが、英語での発表・ディスカッションが約1週間行われ、私にとって最新分析技術と英語の双方を勉強できる大変貴重な経験となりました。今後も、研究の質向上は勿論ですが、グローバル化を念頭に“英語力”も身に付けていきたいと考えています。

さて、次のバトンは株式会社エービー・サイエックスの大関由利子先生にお願いしたいと思います。大関先生には、質量分析装置の原理・アプリケーション等について日頃から勉強させていただき、お世話になっております。この度はご多忙のところ、お引き受けいただき有難うございます。

〔アサヒグループホールディングス株式会社 柿木康宏〕